

「議会のあり方」検討協議会第11回第2部会 協議概要

1 日 時 平成24年11月20日（火）午後0時30分～午後1時41分

2 会 場 議会棟 3階 第2委員会室

3 出席者 （委員）布施部会長、湯浅副部会長
川村委員、段木委員、酒井委員、佐々木(友)委員
小田委員
（事務局）事務局長及び事務局次長 他5人

4 傍聴者 （議員）福永議員
（一般）なし

5 協議事項及び協議結果

（1）第10回部会における協議概要等について
資料を配付し、了承を得た。

（2）議会報告会について

最初に、部会長から正副部会長案について説明が行われ、その後、各委員から意見を聴取した。また、副部会長から、北九州市議会で開催した議会報告会を傍聴した際の様子や所感について説明が行われた。

今回提案された正副部会長案については持ち帰りとし、会派の意見を聴取して来ることとした。

次回は、正副部会長案についての各会派の意見を報告してもらい、さらに議論を深め、部会としての結論が得られるように努めることとした。

（主な意見等）

- ・各区4年間で8回開催することとなるが、市民参加という点から見てこの回数でいいのか疑問はある。
- ・報告内容については、報告する議員が協議して行っていくことになるようだが、議員の能力や資質がかなり問われ、力が試されてくるであろう。
- ・実施すると色々な課題が出されていくことと思われるが、それは運営委員会で改善を図っていくというような文言を入れてほしい。
- ・投票率100%の実現ということを目的にすると分かりやすく、実現しやすいのではないか。
- ・市民が参加しやすい名称にする方が、積極的な市民参加が得られるのではないかと。また、若者の政治離れが問題となっているので、若者をキャ

- ッチできるようなネーミングに留意してほしい。
- ・第一部・第二部のバランスは重要で、それによって中身が大きく変わる。バランスを変えることで、中身が大きく変わることに對する議論は必要ではないか。
 - ・議会として報告する立場から、ある程度報告する人たちで意思統一を図ることは、議会内で問題提起する上でも大切ではないか。
 - ・クリアーしていかなければならない問題が多いと思うが、1回実施した上で、開催頻度や時期を検討していけばいいのでは。また、開催する時間帯も大事なことはないか。
 - ・意見交換会は年1回とし、それとは別の働き掛けで、キャンパスや施設へ意見交換をしに行くことができればいい。また、第一部で議会報告と意見交換を行い、第二部で懇親の場として雑談をするのもいいのではないか。
 - ・市民意見をどのように生かしていくかが必要であり、自分たちの意見が生かしてもらえたことで、議会を身近に感じてもらえることになるのではないか。
 - ・目的が「議会としての説明責任を果たす」というところから、大上段に切り込み過ぎでは。目的はきちんと設定すべきであるが、もっと軽く始められる形でいいのではないか。
 - ・市民参加の推進の一つの取り組みとして、年に何回か市民の側に出て行って報告する場を持つというぐらいの設定でいいのではないか。
 - ・市民意見はしっかり議会内で共有するということで留めていくぐらいがいいのでは。年1～2回の場で来た一部の市民の意見で動いていくことがいいのか。
 - ・議会における報告活動は議員や会派が行うべきで、議会として行う必要はない。

(3) 次回の開催日程について

次回の部会は、12月20日前後で開催することとし、日程については正副部長で調整することとした。